

竹下復興大臣ぶらさがり記者会見録

(平成27年5月27日(水) 14:29～14:36 於) 茨城県潮来市)

1. 質疑応答

(問) 大臣、今日1日、相当長丁場だったと思うのですが、茨城県内の復興の状況というのをご覧になって、まず所感をお伺いしたいのですが。

(答) まず、来るのが遅れたなというのを改めて痛感しました。前々から相当ひどい、まず地震による被害、それから液状化、津波、色々な被害が出ていることは、数の上では存じ上げておりましたけれども、どうしても大きな被害を受けた3県が先で、こちらに来るのが遅れたなというのを、今日冒頭に知事を初め、市町村の皆さん方に謝ったのは事実であります。

しかも特に液状化の問題というのは、非常に深刻な状況になっているなということも改めて感じましたし、ただ冒頭でお話ししたのは、液状化の事業と地震で建てかえを余儀なくされる、市役所などの庁舎の建て替え費用については、これまで国がお約束した部分は、しっかりと対応させていただくということを冒頭にお話をさせていただきまして、その部分では一定の御安心をいただくことはできたのかなと思いました。

ただ、その上で例えば液状化について言いますと、その後のモニタリングの費用とか、万が一周辺に不具合が出たときの補償をどうするのだといったような議論もありました。

それから、市役所の建て替えについても、資材が高騰している、人件費が上がっていると、その部分も頭痛いのだという話がありまして、モニタリングの部分については、きちっと対応させていただけることはできると思いますが、それ以外については、ちょっと持ち帰らせてくださいと、検討させてくださいと。ただ、検討すればできるものかどうかも含めて、検討させていただきたいということをお話をさせていただいたところでございます。

皆さんもご覧になったように、この液状化の状況というのは、非常に厳しい状況、しかもここは大きなエリアになっておりますが、いろいろな所でいろいろな形の液状化が起きていることが事実でありまして、それは工法も実は残念ながらまだしっかりした、世界中でこれは液状化にはこうだなという確立した工法があるわけではありませので、工法の技術的な手探りも含めて、本当に苦勞していらっしゃるなということは、改めて痛感したところです。

(問) 今、来るのが遅れたというのが最初にお話ございましたけれども、他の被災地と比べて、茨城の被災の状況というか、復興の状況、どんなふうにご覧になりましたか。

(答) 地震そのものの被害については、大分立ち直っているなど、それから津波の被害を受けたエリアもかなりあるのですが、そこはまだまだのところもありますけれども、しかしそこそこ明らかに復興に向かって動いているなどということは、感じることができました。

ただ、一方で目に見えない被害といいますか、風評被害、観光客が減る、あるいは海水浴客が減る、あるいは原発の影響で茨城沖の魚について、なかなかいい値段がつかないといったようなものは、まだまだ乗り越えなきゃならない課題もたくさんあるなどということは痛感しました。

(問) 風評被害の部分というのは、他と比べて、福島のももちろんですけれども、大きいようには感じられましたか。

(答) これは全てのエリアで起きている、残念ながらこの風評被害というのは、まだ完全に払拭し切れてはいないのですが、これは小さなことからきちっと積み上げていって、正しい情報をしっかり流すと、それをしっかり受けとめていただくような方法をさらに考えると。

もっと言いますと、今度は旅行会社の人を招いて、来てみろと、こんなに安全でおいしいものがいっぱいあるところはないだろうと、こう胸張って言えるような状況をつくっていくと、そういうことを一つ一つやっていく以外に、こうすれば消えますという方程式はないですから、緻密な作業ですけれども、積み上げていかなければならんと、こう思っています。

(問) 物理的な復興とは、また別の取り組みが必要だということを含め、今回認識を新たにされたということですか。

(答) 認識を新たにというか、これは以前から相当頭の痛い、特に外国から見て日本がどう見えているかということ考えた場合、福島も茨城も外国から見たら一つの点なんですよ。

ですから、外国の目のほうが相当厳しいものがあるなどということは、前々から感じておりましたので、それも含めて、海外へのプレゼンスというか、海外に積極的に働きかけていくことも、これはやらなきゃならんし、連休前の閣議で官房長官から指示が出ましたのは、連休で海外出張する政府高官、大臣とか副大臣とか、海外行きますが、必ずこの風評被害の話を出してくれと、出して、相手の政府の高官にぶつけて、政府首脳にぶつけて理解を得てこいという指令が出ておりますので、それは各大臣かなり積極的にやってもらったなどということは、感じておりますけれども、それでもまだそう簡単に乗り切れるものではないなと悩んでいます。

(問) 今回の視察の結果、持ち帰ってというお話もありましたけれども、今後どのように検討して結論を出していきたいというふうに

お考えでしょうか。

(答) 色々な、例えば国交省と話さなければならないことも幾つかございますし、総務省と話さなければならないことも幾つかございます。復興庁の中だけの議論というよりも、他の官庁と上手く調整をするということが我々の仕事でありますので、それを一つ一つやっていくということに尽きると思います。

(以 上)